

# Q22 知的障害とは

## 1 知的障害

知的障害とは、「発達期に起こり、同年齢の者と比べ知的機能の発達に有意な遅れがみられ、適応行動の困難性を伴う状態」をいいます。

知的機能とは、認知、記憶、言語、思考等にかかわる機能です。適応行動の困難性とは、適応能力が十分に育っていないということであり、他人との意思交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用等について、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていないということです。

障害の程度によって異なりますが、日常生活や学習において様々な支援が必要となります。

## 2 知的障害のある子どもたちの特性

学習上の特性としては、習得した知識や技能が偏ったり、断片的になりやすかったりすることがあります。そのため、習得した知識や技能が実際の生活に応用されにくい傾向があり、また、抽象的な指導内容よりは、実際の・具体的な内容が習得されやすい傾向があります。

その他の特性として、運動機能、感覚、知覚面では、運動機能の出現の時期が遅れがちです。走る、飛ぶ、指先を使うことや敏捷性が乏しく、見る、聞くことなどに課題があります。

そのため、次のような学習や行動上に特有の困難性が見られます。

- 実際の生活経験が不足しており、体験をもとにした抽象的な学習内容の理解が難しい。
- 成功経験が少なくなりやすく、主体的に活動に取り組む意欲が低くなりがちである。
- 自閉性障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由など、ほかの障害を併せ有することもあり、不均衡な発達状態が見られることがある。
- 服薬している子どももおり、医療面での配慮が必要である。

## 3 学習場面や、日常生活での配慮・支援

### (1) 児童生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織する。

知的障害の状態は一人一人が違い、様々であるから、知的機能、身辺自立、社会生活能力等の状態のほか、運動機能、学力等を参考に実態把握を的確に行い、指導内容を決めていくことが大切です。

### (2) 児童生徒の実態等に即した規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。

日課や学習環境を分かりやすく整備することにより、日々の学習について自ら見通しをもって行動し、学校生活を送れるようにします。

### (3) 自立し、社会参加することができるように、身辺生活・社会生活に必要な知識、技能及び態度が身に付くようにする。

### (4) 職業的自立をめざし職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能及び態度が育つようにする。

小学部段階から将来の職業生活を想像し指導することが大切です。働く力だけ

でなく、生活する力や余暇活動の力なども育てます。

- (5) 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、具体的で実際的な状況下で指導する。
- (6) 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるようにする。  
学習によって習得した知識や技能が、実生活の場ですぐに応用されるように、児童生徒の生活上の課題に沿った指導内容の設定と、学習を通して日々の生活の質が高まるような実践的な指導を行います。
- (7) 児童生徒の興味・関心を引く教材・教具等を用意するとともに、目的が達成しやすいように段階的な指導を工夫するなどして、学習活動への意欲が育つようにする。  
児童生徒の興味・関心に注目し、好きなことや得意な面を考慮するとともに、特性に配慮した教材を創意工夫して作り、目標課題に到達できるようにスモールステップで指導を行い、学習活動への意欲が育つようにします。
- (8) できる限り成功経験を多くするとともに、自発的・自主的活動を大切にし、主体的活動を促すようにする。  
やればできる、できたら評価してもらえ、そして次の学習に取り組みたいくなるという学習サイクルを生み出すようにし、自発的、自主的な活動を引き出して、主体的な学習を促すようにします。
- (9) 児童生徒一人一人が集団の中で役割を得て、その活動を遂行できるよう工夫する。  
学級集団での係活動などを積極的に活用し、社会の一員としての役割を学び、自尊心を育て、社会生活能力を伸ばすようにします。
- (10) 児童生徒一人一人の発達の不均衡な面や情緒の不安定さなどの課題に応じて指導を徹底する。